

北部国道事務所におけるヤンバルクイナロードキル対策について

北部国道事務所	調査課	
課長	仲松 ^{なかまつ} 徳修 ^{とくしゅう}	◎
調査係長	金城 ^{きんじょう} 基樹 ^{もとき}	○

1. 目的

沖縄本島北部に位置する、「やんばる」の中でも、特に国頭村、大宜味村、東村には亜熱帯の森が広がっており、やんばるでしか野生の姿を見ることの出来ない多くの固有種が生息している。

1981 年に新種として確認され、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠA類に分類されている国指定天然記念物のヤンバルクイナもその一つであるが、野猫やマングースなどの外来種による、捕食や生息域の圧迫の他、道路横断時に交通事故《ロードキル》にあう被害も確認されている。

ここでは、北部国道事務所で実施しているヤンバルクイナのロードキル対策について紹介するものである。

2. 内容

(1) ヤンバルクイナを取り巻く現在の状況

ヤンバルクイナを脅かす要因のマングースなど外来種の存在や、ロードキルなどがあげられる。

(2) ロードキル対策事例

これまで北部国道事務所が実施してきた、クイナフェンスやクイナトンネルなどのヤンバルクイナのロードキル対策事例を紹介。

(3) 効果

ロードキル対策実施区間において、ヤンバルクイナの道路への侵入状況をモニタリング調査し、対策前と比較し、ロードキル対策の効果を示す。

(4) 課題と対応策

一定の効果がみられるクイナフェンスではあるが、道路上に侵入した個体が道路外に退避できずロードキルにあう危険性が高いという課題が生じたため、対応策として、道路側から外側へのみ移動が可能な構造のワンウェイゲートを追加した。

3. 結論

現在、ワンウェイゲートの効果について、モニタリング調査を行っているところであるが、6 月 9 日に、ワンウェイゲートを利用する個体が初めて確認された。このことから、ワンウェイゲートの設置により、クイナフェンスの道路侵入防止効果を維持すると同時に、車道外への退避対策として、ワンウェイゲートが機能しうることが確認された。

4. 今後の問題点

各関係機関及び地元の連携した取組により、ヤンバルクイナは少しずつ個体数が回復しつつある。これまで国道のロードキル対策実施区間の事故は減ったが、未対策区間での事故範囲が広がってきているため、今後も事故の危険が高い箇所を把握し、より効果的な対策を講じていくことが重要である。

今後、対策実施区間が増えることが予想されるが、その効果を確認するモニタリング調査の範囲（箇所）については十分検討する必要がある。